

# 白子川 源流通信

2014年8月 第42号

「白子川源流・水辺の会」会報紙

- 創作「天の神のみぞ知る！」
- 科教協 全国大会報告
- ◆新会員紹介
- ◆連載 白子川現代史②
- ◆連載 源流探歩③
- 定例活動報告

白子川な風景 6

## リバイズム

ある夕暮れ、  
魚類調査を終えた会員は  
網を片手に  
松殿橋の下を通り  
仲間が待つ源流へ  
向かっていた…

そんな  
夕映えの白子川源流で  
ある想いを抱いた…

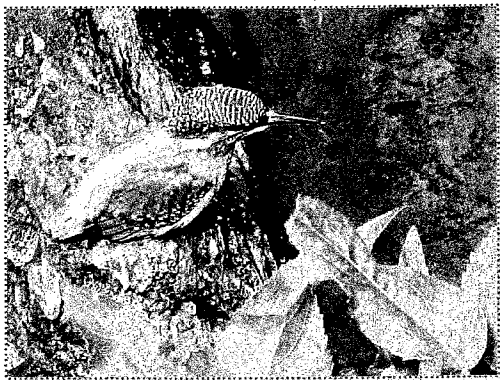
私たちが  
十数年続けている、  
川～生き物～人の  
つながりを  
“リバイズム river-ism”  
と名付けてみようか、と。

(文・写真 菅沢 博)



# 定例活動報告

5月 6月 7月 8月



小魚をねらうカワセミ。6月、井頭公園、白子川  
コンクリ蓋の源流側出口、石の上にて

白子川源流域と生きもののはなし

## カワセミのいる川になった!

毎年春から夏にかけての源流は、梅雨に降った雨が次第に蒸発し、夏真っ盛りには渇水状態に陥る。ところが、今年各地に大雨をもたらす異常気象現象は、この源流でも真夏の水量の多さとなって現れている。これを単純に喜んでいいのか…複雑な気持ちにもなる。源流の生きものたちにとっては、恵みの水でもあるが、今その水中にはアオミドロが多量に発生しているからだ。源流の環境はたえず変化しているが、それがどう生きものたちに影響を与えていくのか、今は地道な除去作業と観察を続けていくしかない。

■源流域・水の測定データ

測り 定地点	日 天気 気温 項目	5/25	6/22	7/27	8/24
		31	21	37	40
源 流 部	水温℃	25.2	17.9	20.3	20.5
	水深cm	15	35	30	17
	pH	8.2	5.9	6.0	6.7
井 頭 橋	水温℃	22.3	17.7	20.5	21.8
	水深cm	25	46	41	38
	pH	7.6	5.9	5.7	6.7

※このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。

生きものたちの中で、この時期の人気者はやはり春生まれるヒナガモたちだ。母鳥の後を追いかけてチョロチョロ泳ぎ回る姿は川浴いを散策する人々を楽しませてくれる。

しかし、もう一種人々を魅惑する鳥がいる。そう！瑠璃色の鳥カワセミだ！これまでも見かけることはあったが、この春白子川での営巣が確認され、ヒナが誕生したことが分かった。源流部にもよくやってきて魚を取る姿が見られる。カメラを携えたおじさんが毎日のようにやってきて、「いるよっ！」と小声で言っは、いいショットを狙っている。とうとうカワセミも白子川の住民になったんだ。

「湧き水と生きもの豊かな白子川源流にしましょう」…私たちの願いが、絶え間ない川活動の成果として実現されてきているのだと思う。一方、変化する源流の環境を考えると、決して楽観視はできない。これからもこの活動が途切れることなく、若い世代へと受け継がれていくことを願わずにはいられない。

(東谷貞子)

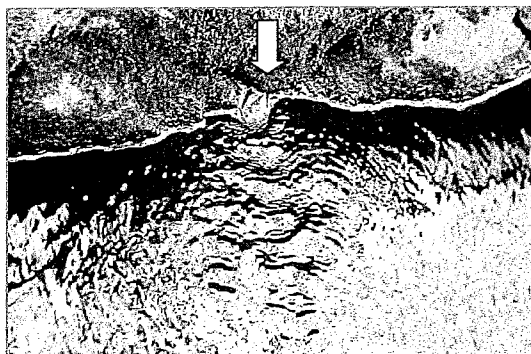
## 活動記録

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 5/25 定例活動              | 7/17 大泉南小4年生白子川体験(2回目) |
| 6/1 身近な川の全国一斉調査リハーサル参加 | 27 定例活動                |
| 1 「若者と市民の環境会議」出展       | 8/3 「科学教育研究協議会」全国大会発表  |
| 8 身近な川の全国一斉調査実施        | 5 南田中図書館展示(~9/末)       |
| 10 大泉南小4年生白子川体験(1回目)   | 23 白子川源流まつり 第1回実行委員会   |
| 15 第14回定期総会            | 24 定例活動                |
| 22 定例活動                | 27 会報第42号発行            |

## 源流探歩③

### 雨と湧き水

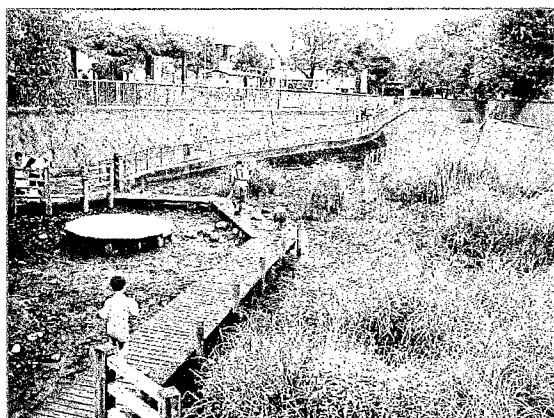
岡崎 一成



川の岸壁から湧き水が流れ出ているところ  
湧水量が多いとこうして流れ出てくる



源流部の川底からも湧き水が吹き出している  
上にたまったドロがよけられ、小石が見える



2013年8月 干上がった源流池



2014年6月 大雨の後、木道も水没した源流池

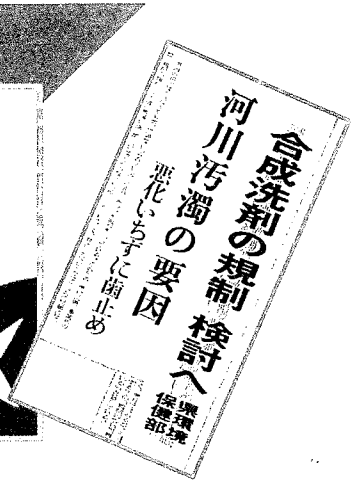
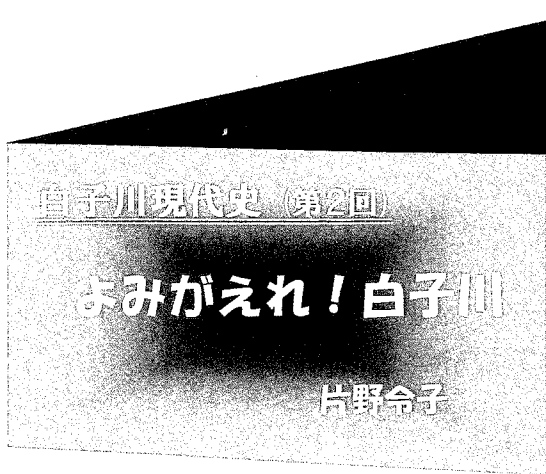
「三宝寺池や井の頭池の湧き水は涸れたけれど、白子川は今でも湧き水が湧いています！」と誇らしげに自慢したいところですが、ちょっと待ってくださいよ。それは正確ではありません。

というのは、白子川はもう昔の姿ではないからです。昔の姿のままでしたら、もうずっと前に湧き水は涸れてしまい、水のない川になっていたことでしょう。これはいったいどういうことなのでしょうか。

現在、湧き水が湧いているのは、本当に一つの偶然にすぎないのです。白子川は昭和の高度経済成長の時期に、生活排水と雨水を集約して流すために、川底を深く掘り下げられました。その結果、地下水位が下がった今でも湧き水が湧いているのです。三宝寺池や井の頭池の川底は、昔も今もあまり変わっていませんので、地下水位の低下とともに湧き水も涸れてしまったのです。

しかし、そんな白子川も湧き水が年間をとおして安定しているわけではありません。雨が降ると増え、降らないと減り、長期間雨が降らなければ湧き水は涸れてしまいます。源流池では、夏と冬の水涸れが定常化しつつあります。緑の畑や空き地、樹木が減って、地下に浸透する雨水が減り、大地の保水力が低下しているからです。

湧き水を絶やさないためには、もっと樹木を植え緑を増やして、この地に降った雨水をきちんと大地に戻してやるということがとても大事なことになるのです。



高度成長の真ただ中で、白子川は川の役目を終え、下水道のためにふたをされるかの運命にあった。一方、「練馬には川がある」ということで引越してくる人たちもいた。従来から住んでいる人たちは、川のあることは当たり前なので、それが消えることもまた当たり前のように思っていたのかもしれない。しかし、川があるからこそこの地にやってきた新住民にとっては、川が消えるなんてとんでもないことだった。

汚濁の白子川を復活させる方法はないものか。特に女性たちの気づきは早かった。川の汚染は石油系洗剤による合成洗剤が大きい。合成洗剤には有リン、無リン洗剤があり、シャンプー、洗濯、歯磨き、食器洗い用として、またその他の洗浄剤として、家の中を埋めつくしていた。その当時、それらの合成洗剤によって琵琶湖はアオコや赤潮が発生し、アユが死んでいるというニュースも報道されていた。新住民の女性たちは少数派ではあったが、川の汚れの原因をきちんと学習していた。

1980年代の練馬区議会では合成洗剤を追放し石けん使用を要求する陳情や請願が続出した。その内容は川の汚染による環境問題、学校給食の安全性、給食現場労働者の手荒れや皮ふガンの予防策を要求するものだった。

当時の議会の区民衛生委員会はほとんどが男性議員のため、合成洗剤と石けんのちがいがわかる人はほとんどいなかった。「川が汚れているなら、ブルドーザーで洗えばいい」「シャツは白くてきれい

な方がいい」「白子川は都内一番汚れているのに元にもどすのは不可能だ」という発言ばかり。実際に川を見ようという議員はいなかった。

しかし、女性たちは川が汚れている姿を知ってほしいと、公害に詳しい東大の医師、高橋暁正氏を呼んで学習会を開き、合成洗剤液と石けん水液によるメダカの実験をした。さらに、石神井川に出向いて透視度や蛍光剤による実験などもした。白子川にも来て汚れた現状を見てほしかったが、当時の練馬区では石神井川が中心のような感じであった。(私の単なるヒガミかもしれないが…。)

区民はスーパーに置いてある洗剤の調査をしては各議員に訴え、石けんをもっと店に置いて、買いやすいようにしてほしいと訴えた。署名数は2万人～3万人となり、陳情や請願はほとんど採択される運びとなった。それは本当に画期的なことであった。「よみがえれ石神井川、よみがえれ白子川」として、水辺ふれあい計画が区の年次計画にも入れられるようになった。

こうして豊かな湧水をもつ白子川にもやっと議員の目が向けられるようになったのだが、依然として汚物は流れこみ水洗化はなかなか進まない。身近な川として地域の人たちが関心をもつまでにはまだまだであった。川に入ることは許可がないとできず、水辺でのイベント的なふれあいが中心だったのだ。直接川に入ることができたら、人々の意識はいっぺんに変わると思われたが、それができるまでには、まだ時を要したのだった。

# 科学教育研究協議会

## 第 61 回全国研究大会

参加者：菅沢、横山、永井、  
鈴木、渋谷、岡崎、望月

報告者：望月 孝

全国の理科の先生たちの集まる「科学教育研究協議会第 61 回全国研究大会」の東京大会が、8 月 2 日～4 日に港区芝にて開催され、当会是一般団体として 3 日の分科会「自然と社会」ならびナイトーに参加しました（主催：科学教育研究協議会、後援：東京都教育委員会・港区教育委員会）。

### 大会テーマ “自然科学をすべての国民のものに”

—自然科学の「何を」「いつ」「どのように」教えるかを追求し、  
子どもたちが学びあう授業の創造を—

#### 分科会発表「東京で一番汚かった川から」（出席者：22 名）

- ・白子川の概要、活動内容（菅沢）
- ・水質調査、生き物調査（横山）
- ・湧水と川の様子、貴重な動植物の紹介（岡崎）
- ・白子川源流まつりと大泉南小学校の総合学習支援（菅沢）
- ・合流式下水道問題と自然を守ることへの今後の課題（永井）



#### ナイトー発表「湧水の白子川源流を地域で守ろう」（出席者：10 名）

ナイトーでは、湧水と外来種について活発な意見交換が行われました。また、出席者の中に鮎放流に参加されていた方がおられ、白子川の活動を通して多くの人たちと繋がっていることを実感しました。今後、多くの人々に川から学ぶ「白子川体験」が、自然環境の素晴らしさを知る気づきや学びのきっかけとなる、大きな役割を担っていると思います。

# ☆☆☆創作☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 天の神のみぞ知る!

池田 正

ヒメガマやカンガレイが生い茂っている白子川源流の夏、石の上に、子供を背負ったアズマヒキガエルが座り、ホトケドジョウと話し合っていた。湧き水によって造られた源流が川になって流れて何億年か過ぎる間に、共に水の中で生まれ育ってきた友である。彼らは水こそ「我が命」と思っている。自然の神もきっと、その通り、と答えるはずである。彼らの話題は、生きものの「決起大会」についてであった。

地球が生まれ、最初に創造されたのが水であった。そしてその水の中で何十億年もかかって生きものが創られたのである。ヒトという生きものを含めあらゆる動物・植物の先祖は同じである。そのヒトが、生きるために必要な食糧と水を求めてたどり着いたのが、ここ白子川の源流であった。清らかな湧き水を口いっぱい含んで飲んだ時、さぞおいしかったにちがいない。しかしその時、もうすでに源流と流れる川にはアズマヒキガエル、ホトケドジョウ、さまざまなトンボ・クモらが先住しており、周囲には草木が繁茂してにぎやかな一つの楽園を創っていたのである。

ヒトはその後「地球にやさしく」とか「共生」というお題目を掲げながら、楽園を少しずつ壊してきた。湧き水のもとになる樹木を切り倒し、生きものの中で一番多く水を使い、他の生きものたちの生死を考えもせず、ゴミ

を捨てたりしているのである。

このような現場を耐え抜いてきたアズマヒキガエルが、源流に棲むあらゆる生きものたちを召集したのである。集まったのは、次のような多種多様な生きものたちであった。カルガモ・コサギ・カワセミ・スズメ・ツバメ・コウモリ・トンボ・チョウ・ハチ・カラス・トウキョウダルマガエル・セミ・フナ・クモ・コイ・メダカ・アユ。

アズマヒキガエルは声を大きくして演説を始めた。



画:飯田 智子

「諸君、よく集まってくれた。この源流は何億年も前から存在し、ここを故郷とする生きものは数限りない。しかし我々と同じ生きものであるはずのヒトの、わずかではあるが源流を破壊し、我々の生存権を脅かすものがあるのは誠に残念である。諸君、我々生きものは、我々自身を守るために協力しようじゃないか。

そうそう、カンガレイ・ヒメガマ・ミクリなど植物の諸君たちも、ヒトから直接にものを投げ

られたり、あるいは間接的に原因を作っている気候異変や洪水から自らを守っていくようにしようじゃないか。

さらに、このたび仲間に入ったアユに対してもこの源流が故郷となるように、みんなで協力していこうじゃないか。諸君、ワカツタカ?」

それを聴いていた生きものたちはみな「オー! オー!」と天に向かって声をはりあげた。結果がどうなるか、それは「天の神のみぞ知る!」である。

※池田さんは、これまでもたくさんのユーモアとペーソスに富む作品を創ってこられています。今回は白子川にちなむお話をお願いしました。(編集部)



有山美沙子

石神井町在住

楽しい活動情報

白子川源流・水辺の会の購読会員に入っ  
てごらん、メールで色々な情報が届いて、興味深くて面白いよと言われて、会員になりました。まだ活動には参加できませんが、メールを読んで写真を見ていると、自分もその中に入っているような気がしてしまいます。いつも写真がステキで楽しく拝見させて頂いています。

昨秋は源流まつりに行って来ました。夕方であり時間はありませんでしたが、展示物を見学したり、焼印プレートを作ったりと、大人でも楽しみました。

鮎が生息できるかテスト中だそうですが、白子川に鮎が来てほしいです。最後に私も胴長を着てみたい  
です。

西 和彦

大泉学園町在住

大泉の名前の由来にも魅かれて

明治の町村合併時の新村名は地元の小学校の校長先生の案が「小泉」、これを東京府の郡役所が「大泉」としたというのが定説です。

白子川の通称であった「小井戸川」の「小」と井頭の「泉」を連ね、「井頭、白子川の水の恵みを受けている地域」というのが大泉という名前の由来のようです。

その井頭の泉を長く守り育てていらっしゃる会に参加させて頂き、感謝しております。

住まいが学園町ですので日々の活動への参加は難しいのですが、先ずは心の参加をさせて頂きます。

建築が専門で、練馬区では景観計画の策定などに参加してきました。よろしく願い致します。

新  
会  
員

紹  
介



里川のような白子川

石神井川の傍らの石神井台4丁目に住んでいますが、なぜか白子川に魅かれて入会しました。おそらく皆さんの活動の底流に白子川を里川のように愛しむあつい想いが流れていると感じたからでしょう。

そして6月の総会に出席して、多様な人間を結び付ける白子川にいつもの不思議を覚えました。

「里川」は未だ辞書に採集されて

西島幸夫

石神井台在住

いませんが、もっと意識的に使って、辞書に採集される日を待ち望んでいます。

「里山」が広辞苑に載ったのは第5版(1999年11月)からです。

小学唱歌「故郷」の一節「兔追いしかの山、小鮎釣りしかの川」のように、白子川源流域の自然と環境が守られ、いつまでも湧水の出づる川であることを願っています。

## トウキョウダルマガエル

トノサマガエル類に属する。準絶滅危惧種となっている。生息区域：関東平野、新潟平野、仙台平野で見られるが、生息域が減ってきている。

ここ数年源流域で4月から7月にかけて繁殖する。流れの緩い田んぼや池沼に生息する。体長は4～8.5cmでメスの方が大きい。啼声は、グゲゲゲケツゲゲゲと啼く。



カエルはどーこだ？

# 源流まつり

10月26日(日)午後

大泉井頭公園で開催



### これからの活動予定

9/13(土) am 大泉南小4年生白子川で学習  
pm 竹炭づくり  
19時～ 源流まつり第2回実行委員会  
28(日) 定例活動  
10/ 4(土) 9時半～ 源流まつり最終実行委員会

10/25(土) 白子川源流まつり準備(終日)  
26(日) 白子川源流まつり  
11/23(日) 定例活動  
12/28(日) 定例活動(12/27 運営会議ナシ)  
※運営会議は定例活動の前夜です

定例活動 毎月第4日曜 午後1:30～

どなたでも 川にはいれます！

### 編集後記

▼外環道予定工事で変わり果てた「八の釜憩いの森」で遺跡が出たと聞いた次の日に、大空では、一羽の猛禽類が旋回しながら上昇気流に乗っていた。大泉の古代からの水と緑を残さねば。(ひ)

▼淀みがアオコを生んだ。臭さが予想以上にひどい。8月は、川の“床屋さん”になって、繁茂した植物たちと取っ組みあい、水の流れ道を作った。湧き水よ、流れよ！(あ)

▼川風にほっと一息！真夏の夕方、犬の散歩時、熱気の消えやらぬアスファルトの道路から井頭公園沿いの川道に来ると、ふうって吹いてくる湧水の風…ほんのり涼気。(さ)

▼暑さにあえいでいたこの夏、とんでもない土砂災害が起きた。事件、事故、災害、、、被害を知るたびに、つらい思いを抱えながら、これから生きていく方たちがいることを思う。(け)

発行 白子川源流・水辺の会  
編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子  
題字 宮本沙海  
発行部数 1,300部  
代表 菅沢 博 03-3923-8430  
練馬区南大泉 1-10-5  
suga-lohas@jcom.home.ne.jp  
[http://www.geocities.jp/sirako\\_river/](http://www.geocities.jp/sirako_river/)  
※この会報は年3回発行しています

当会はTOTO水環境基金の助成を受けています